

# 鳥取県青少年育成アドバイザー協議会通信

鳥取県青少年育成アドバイザー通信 49号  
鳥取県青少年育成アドバイザー協議会  
発行日 2006. 12. 20  
編集 芳村恵子  
〒680-0002 鳥取市浜坂東 1-10-15

## 第40回青少年育成鳥取県民大会

平成18年10月27日

青少年育成功労者として、アドバイザー仲間の  
お二人が表彰されました。おめでとうございます。

### 清水成真さん(44才) 三朝町

<主な活動内容>

H3.4~H18.3 青少年育成推進指導員

H6.1~H17.9 主任児童委員

H7.5~現在 倉吉地区少年補導センター補導員

町内・地域の人々の信頼は厚く、子育て等に関する講演は町内外から依頼が多い。また、倉吉地区少年補導センター補導員として活動を続けると共に、中学校教育相談員として長く中学生の心の教育にも携わり、中高校生や若者からは友達感覚で付き合うことのできる大人として、信頼されている。一方、地域の歴史・文化を生かした和太鼓演奏「三徳山行者太鼓」の指導を通して、小学校の健全育成にも関わっている。

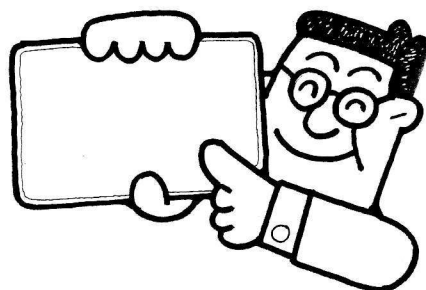
### 門脇哲也さん(68才) 境港市

<主な活動内容>

S61~H12 青少年育成境港市民会議渡地区部会長

H5~現在 青少年育成推進指導員

平成5年から現在まで青少年育成推進指導員として活動している。ツーショットカード自動販売機の撤去運動を行うなど、青少年の健全育成活動に多大な貢献をしている。



## 平成18年度青少年育成活動推進研修会

日時：H18年11月17日 10時~12時

場所：中部総合事務所

青少年育成に関わる人達が会議室いっぱい集まり、研修を受けた。鳥取県企画部長の上場重俊氏の「青少年をめぐる状況と私達の課題」と題しての講演から始まった。

今の子ども達は、自然との関わりも少なく、不慣れさや環境に適応する力が学べない状況にある。これは学校では学べない。家庭や地域で学ばせる必要がある。

「プールでの事故が問題になったが、本来利用している者が点検できなければならぬ筈である。」  
「段差をなくすことを考えた施設を作ることも大切だが、そのために人が手助けをし合う事をしない社会になってはいけない。」「自分自身で、ここを越えたら落ちるということを考えないで、柵を作らない国が悪いと言うのはおかしい。」と。

「自らは自分が守る。自分のことは自分です。自分でできない事は人様に助けて貰う。」  
当たり前が当たり前でなくなった。

その他多くの多角的なものの考え方を学ばせて頂いた。

日吉津村に、「お母さんに言えないことは、しないこと」という標語があったとか。お母さんをはじめとする大人が手本となり、良し悪しをきっちり示せてこそその言葉なのだろうが、最近の頼りない大人の事件を重ねて、複雑な思いで聞かせて頂いた。

その後、事例発表があった。鳥取市教育委員会事務局生涯学習課の方、そして我がアドバイザーの仲間としても活躍しておられる熊本信幸さんと門脇哲也さんも、それぞれ地元の青少年育成活動の様子を発表された。

こんな地域のおじさんお婆さんの思いが子ども達に届いてくれることを願わずにはいられなかった。

平成 18 年度

青少年育成運動展開のための指導者養成事業  
「青少年育成運動のための中核的指導者養成  
中央研修会」参加報告

と き：平成 18 年 10 月 18 日(水)～20 日(金)  
ところ：国立女性教育会館(埼玉県 武蔵嵐山)  
主催：(社) 青少年育成国民会議(委嘱：内閣府)  
参加者：175 名  
鳥取県：湊、熊本、卜蔵、井上(4 名)

江府町 井上 廉女

しばらく家をあけるため、あれもこれもとやるべきことをだあっと片づけ、米子の卜蔵さんとともに 10 月 17 日の夕方からサンライズ出雲に乗り込んで一路東京へ向かった。

ことしは会場が代々木から埼玉に移動したため、武蔵嵐山駅まで乗り継ぎ、徒歩にて国立女性教育会館(ヌエック)に到着。代々木もかなり広いがこちらも広大な敷地は何と 4 万坪。各種宿泊・研修施設も充実しており、申し分ない環境の中で 3 日間にわたる中央研修がスタートした。

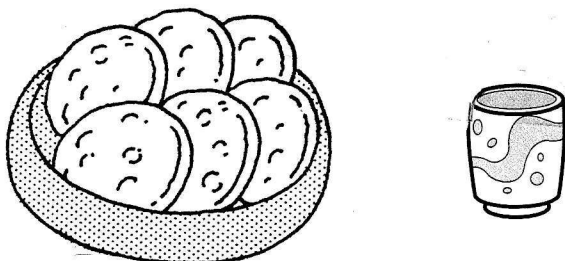
会場入りするや、ぱったりと熊本さんと出会う。各地のアドバイザーの常連の顔もそろっていた。

第 1 日目。

まず内閣府、佐藤主査より国の施策についての説明を受ける。青少年はおおむね 0 歳～30 歳という国の考え方を再確認した。青少年の自立支援の観点で、青少年育成施策大綱の 3 つの基本理念と 4 つの重点課題も確認。(詳細については研修時に配付予定) 青少年の能動性を重視すること、率直に語り合える社会風土の醸成ということが印象に残った。

講義 2 で上村先生から、運動の原点と現状から課題について。講義 3 では吉永先生から、まずは実践！との講義を受けた。直接お話を聞けるのもこの研修ならではのこと。お二人ともお変わりなく若さにあふれ、ますますお元気そうだ。

夕食後、同室の埼玉、岐阜、広島、熊本、鳥取の 5 人で情報交換。意気投合し、夜遅くまで語り合った。



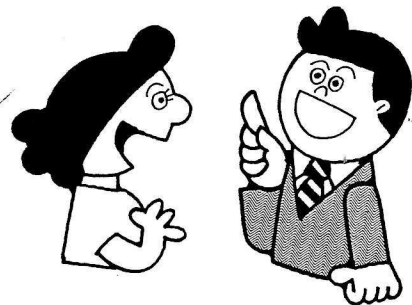
第 2 日目。

前回までのように県別に市町村民会議の活性化策を討議するのではなく、今回は「参画を促す」「社会力を育てる」「安全・安心」「地域で育てる」「社会環境」「子育て支援」という 6 つの課題別に分かれてグループ討議を行った。

私たちの第 6 グループのテーマは「地域における子育て支援策を考える」。まず、萩原先生から導入の講義を受けた。キーワードは「アコモデーション(accommodation:調整・援助)」。子どもはもともと能動性、有能性を持った存在。その発想力、想像(創造)力、コミュニケーション力を大切に。親や周りにいる大人たちが、子どもがどんな支援を必要としているかを見きわめ、求めに応じた援助、調整役であることが肝心であると言われた。はたして現状はどうか。手を出し過ぎている部分がありはしないか、反省するところ大である。

その後、また 6 人ずつの小グループに分かれ、それぞれ各地のユニークな実践活動の紹介や意見交換をした後、模造紙にまとめる作業を行った。

夕食後にも、別に設定されたグループに分かれ、飲食なしの情報交換の場が設けられた。後で会場の全体へ向けても熊本さんが鳥取の有害自販機の取り組みを紹介された。朝から晩までびっしりと中身の詰まったとても長い一日だった。



第 3 日目。

全体会で 6 つ課題のグループごとにそれぞれからまとめを発表した後、先生方からの講評をいただき、3 日間の研修が無事終了した。

この研修が今後とも続けて実施されるようであれば、ぜひ手を挙げて新たに参加してみたい。意を同じくする各地の仲間との出会いがあり、学ぶ喜びを味わえて得るものも多い。

先生方の講義、それぞれの言葉で語られた全国各地の実践事例などを参考に、この研修をこれからの地域活動に生かしていきたい。

## 「ふれあい会」を開催して

西浦 公子

旧赤崎高校で10年間、高塚人志先生（鳥取大学医学部助教授）が、『生徒と幼児・老人など人とふれあうことによって、役立ち感を感じ、人とのコミュニケーションもうまくいくようになる』という実践をされました。

「ふれあい会」とは、その流れを汲んで、赤ちゃんと生徒・児童がふれあいをする会のことです。この会はNPO 未来が中心となって鳥取県全域で開かれています。

岩美町では、岩美南小・岩美中学校・岩美高校で開かれ、乳幼児と親が学校の授業に参加し、赤ちゃんとふれあったり、お母さんにお話を聞いたりする体験会をしました。

岩美中では6～7月に1回目、10～11月に2回目で、2年生5クラス全員が家庭科の時間にふれあいました。最初はおもいおぼしめて、なかなか話せない生徒や、どのように関わっていいかわからない生徒が多数でした。しかし、2回目になると、赤ちゃんも少し成長しているし、自分自身の成長もあり、1回目の体験を見事に生かし、抱っこする姿もなかなかのものでした。男子生徒がそれぞれのペアの赤ちゃんを抱いて3～4人集まり、話をしている様子は、若いパパの井戸端会議？とでも言えそうなほほえましい風景でした。

ふれあい会が縁で、子育てサークルの時ボランティアをお願いしたら、たくさんの生徒が希望し「じゃんけんで行く人を決めるんです。」と言われるくらい、赤ちゃんとふれあいを楽しみにしている生徒が多数いるようです。また、お店などで会った時、ペアでなかった生徒でも「〇〇ちゃん～～～」と言いながら声を掛けてくれ嬉しかったと言うお母さんからの声もありました。確実に中学生と地域との暖かいつながりが増えてきているようです。

岩美高校では、生徒は大人でした。出会った時から、積極的に赤ちゃんと関わろうとする生徒が多く、始終和やかな雰囲気でした。

一ヵ月しか間が開いていない2回のふれあい会でしたが、お腹の大きい妊婦さんの変化や、赤ちゃんの変化を敏感に感じ表現していました。ふれあい会と、思春期指導の会を連動させたことで、生徒達の話聞く態度が随分違っていったそうです。

いろいろな制約もありながら、ふれあい会をさせ

てくださった学校に、感謝感謝です。

私の活動の原点は、「全ての人たちが自己肯定感を！」です。特に、青少年たちみんなが「自分のことが好きです。」と胸を張って言える人間に育って欲しいのです。それが、世界が平和になる近道だと思っているから…。



青少年育成鳥取県民会議のあり方検討委員会の提言（骨子）

### 青少年育成鳥取県民運動の活性化

#### に向けた取り組みについて

H18年10月12日

#### 【はじめに】

- ・ 青少年を取り巻く環境は、複雑かつ多様に変化しており、引きこもりやニートといった新たな社会問題が生じている。
- ・ 「鳥取県の将来を担う青少年は県民全体の宝」との共通認識の下に、青少年育成鳥取県民会議は、発足40周年を契機に今後の使命を見直すこととする。
- ・ 官民一体となった活発な活動を推進する為、その方向性や改善に関し提言するものである。

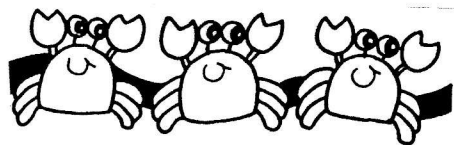
提言1：活発な地域活動の展開に向けた

#### 県民会議の役割

- \* 国民会議・市町村民会議との連携の強化・協働について
- ① 県内の青少年育成活動団体や市町村民会議の活動状況等の情報提供に努めること。
- ② 合併後の新しい市町村民会議の活動が一層活発・円滑に展開されるよう、助言やサポートをすること。
- ③ 国民会議や全国の動向を市町村民会議に伝達すると共に、よきアドバイザーとしての役割を果たすこと

裏面に続く

- \* NPO等の多様な推進母体との連携について
  - ① NPO等が活動の中で得た、地域ニーズやアイデアを活用できる方策を取り入れたり、直接意見が反映できるよう配慮すること。
  - ② 各NPO等が市町村民会議の構成員として参加できるよう、市町村民会議に働きかけること。
- \* 青少年育成推進指導員がもっと活躍するために
  - ① 推進指導員、市町村民会議及び県民会議による意見交換会を定期的及び地域毎に開催するなどして、活発な意見交換を図ること。
  - ② 市町村民会議と協力して、地域住民に推進指導員の役割・活動内容を積極的に周知すること。
  - ③ 推進指導員の配置については、合併後の市町村の実状を踏まえること。
  - ④ 推進指導員の研修会に、市町村民会議の代表者の参加を求めること。
- \* 県との連携について
  - ① 県との調整を図り、自体的に青少年育成に取り組むこと。
  - ② 県民全体や各地域に共通する課題について、県民会議が県に提言等を行うこと。



提言 2：県民運動の推進母体としての  
県民会議の体制づくり

- \* 活動体としての役員構成について
  - ① 育成に熱意のある人に支援される活動体とすること。
  - ② 青年団体活動者やNPO代表者に参加を求め、実態的な意見を反映していくこと。
  - ③ 各市町村民会議代表者の参加を求め、県民会議と各市町村民会議が一体となって青少年育成に取り組む体制にすること。
  - ④ 常任委員会の開催回数を増やし、具体的な議論を行う場となるよう役員構成を検討すること。
- \* 常任委員会・部会の活性化について
  - ① 常任委員会での決定事項を速やかに会員・企業等へ周知すること。
  - ② 部会を必要に応じて組織し、特定の課題に関し協議・検討すること。

- ③ 地域での青少年育成活動の実態を十分反映した委員の選任に努めること。
  - ④ 専門家を部会に招聘し、専門的意見を聞くことができる体制とすること。
- \* 事務局の体制について
    - ① 事務局長を公募するなどして、意欲や熱意のある者の中から専任の者を選定し、運営体制の整備を図ること。
    - ② 公募の際には、抱負、推薦人のほか、その希望報酬を明示することも検討すること。
    - ③ 専任の職員を配置し、専門性を確保しつつ、常時県との密接な連携、事業展開を図ること。
    - ④ 各事業実施に当たっては、構成団体、会員それぞれが主体としての意識を持って取り組むこと。
  - \* 会員の加入促進について
    - ① 県民会議の目的に、多くの賛同を得るよう、事務局のみならず役員個々が会員の加入促進に努めること。
    - ② 会費の値上げを含めた見直しを行い、自主財源の増額確保に努めること。

提言 3：新たな青少年問題に対応した

取り組みの推進

- ① 新体制において、早急に本県の青少年問題に対応した実効ある取り組みを検討し、実行に移すこと。
- ② 青少年を取り巻く諸問題を正確に把握し、具体的な目標を決定するなどして、青少年育成を推進すること。

編集後記

今年の漢字は『命』でした。

全国の人々がさまざまな場面を想像しつつ、この一字を見詰めたことでしょう。溢れんばかりの嬉しさでにっこりしてみたり、腹立たしさや心痛の想いが込み上げてきた人もいるでしょう。誰もが少し立ち止まって、じっくりとこの一字と本気で向き合わなければならないと感じました。

ところで、今回は何と 50 号です。皆様のご協力でここまで続けられたことを感謝しています。有り難うございました。今回は特集号にしたいですね。

原稿宜しく願いいたします。

[oine.oine.oinechan@fork.ocn.ne.jp](mailto:oine.oine.oinechan@fork.ocn.ne.jp)

(word で入れてください)